

道徳科を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について 考えを深める道徳科の授業

伊澤 真佐子（研究代表・和歌山大学教職大学院）

田中 千映、湊本 祐也（和歌山大学教育学部附属小学校）

糸我 直人（和歌山市立広瀬小学校） 西村 里美（和歌山市立岡崎小学校）

豊田 麗香（和歌山市立岡崎小学校マネジメントコース院生） 宇治田 乃（和歌山市立小倉小学校マネジメントコース院生）

田中 美羽（和歌山市立浜宮小学校） 坂本 夏穂（和歌山市立八幡台小学校）

1. はじめに

学校教育全体を通して行う道徳教育の中で、道徳科の授業は要となる。道徳科におけるカリキュラムデザインを活かした授業設計である総合単元的な道徳学習では、道徳科の授業を中心に各教科・他領域を関連付けながら児童の心を育てていく。

本共同研究は、中単元構想のカリキュラムデザインにより、学びを自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考えを深める道徳科授業を課題探究型のユニットを組み取り組んだ。

田沼(2020)は、「パッケージ型ユニットとは、テーマ性によって関連づけられた複数価値を複数時間で小単元として構成し、子どもの『問い』で一貫した道徳学びのストーリーを意図的に紡ぐ道徳科教育学的な視点での授業方法理論」としている。そして、パッケージ型ユニットとして①重層型ユニットタイプ「同一の価値内容を複数時間重ねることで設定テーマへの深い学びを促すタイプ」②連結型ユニットタイプ「多面的・多角的な視点から異なる価値内容で構成して学習深化を促すタイプ」③複合型ユニットタイプ「テーマを複眼的視点から捉えて他教科と関連づけて構成して学習深化を促すタイプ」の3つを示している。本稿の実践は、田沼の示す②③に当たり、学習深化を促す構成を目指した。また、「一貫した問題意識にもとづくテーマのもと、各々の内容項目を関連づけて指導する方が、子どもたちの課題探究が深まる」と示すことも有効であると考え取り入れている。

総合単元的な道徳学習の目標に迫るために、道徳科の授業で、異なる内容項目をどのように関連づけて組むと深い学びにつながるのか、どうすれば意識の連続性がもてるのかを実践をもとに検証していく。

2. 小学校4年生 学習課題：「『自分の時間についてのちをふきこむ生き方』を見つけよう」 日野原重明さんの言葉から課題を設定した実践 （「生きる力 4」 日本文教出版）

小学校4年生担任の田中千映教諭の道徳科授業実践を中心に共同研究を行った。

2.1 研究内容・方法

今回、総合単元的な道徳学習としてカリキュラムデザインするにあたり、10月から2か月程の中単元構想を考えた。教科書の最初の教材「あなたの時間についてのちをふきこめば」(D 生命の尊さ)から、学習課題を設定し単元を組むのである。田中教諭(以下授業者)は、単元の目標と教材の価値を以下のように考えた。

単元名

「自分の時間についてのちをふきこむ」

単元の目標

生命の有限性を再確認し、どのように有意義な人生をおくるのか、自分なりに思いを馳せ、「いのち」(=与えられた自分の時間)をどう使うかについて、考えを深めることができる。

教材の価値

命はたった一つしかなく、有限性があるにもかかわらず、日常的にそれほど意識することなく過ごすことが多い。自らのかけがえのない命の時間の使い方は、人生を有意義に送ることができるかに大きく関わってくる。

本単元では、「いのち」を大切に(有効に)使うためには、「どうすればよいのか」「どのような考え方をしていけばよいのか」を多様な内容項目から考え、深めることができるであろう。

また、日野原さんは、「十歳のきみへ」という本も書いており、「十歳の子どもたちに私の思いを伝えておきたい」と小学校4年生を中心に「い

のちの授業」を行っていた。そこで、単元の最後には、これまでの学習とこの著書から言葉を選び児童と共にテーマについて考えたいとカリキュラムデザインをした。

「自分の時間にいのちをふきこむ」といっても、実際にどのような生き方をすることがそれにつながるのか分からなければ、行動に移すことは難しい。そこで、道徳科の授業において、田沼の示す「②連結型ユニットタイプ」で単元を組んだ。内容項目としては、「D 生命の尊さ」を軸に「A 個性の伸長」「A 希望と勇気、努力と強い意志」「B 感謝」「B 親切、思いやり」「C 公共の精神」の6つの内容項目の教材を関連させて単元を組むことにした。それは、児童が「このような行動をすればいいのではないか」「このような行動をするとこんな思いをもてるのではないか」といった気づきを「自分の時間にいのちをふきこむ」というテーマのもと、各々の内容項目を関連付けることで、道徳的探究を深めたいと考えたからである。

教材を組んだ表を表1に示す。

指導方法として以下の3点を工夫した。

- ・単元の初めに、単元の目標に関する学習課題を子どもと共に設定する。
- ・毎時間の振り返りは、3つの視点(学んだことや考えたこと・自分を振り返って・これからの生活に生かしたいこと)で書かせる。
- ・ICTを使って、今日の学習で見つかった「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」の共有をする。

以上から、児童自身が、学習課題を自分事として考え、自己のよりよい生き方について主体的に考えを深めようとする姿が見られると考えたからである。

教材の順番については、まず、2～4時で目の前にいる人から目の前にいない人についても考えられるように、5、6時で自分自身のことについて考えられるようにした。

さらに、意識の連続性をもたせるために以下の工夫をした。

- ①この単元を通して書く活動に使うワークシートは黄色の上質紙を使うことにし、ユニットで学習していることが意識できるようにした。
- ②7つの授業の意識の連続性を図るために板書を中心にしたものとメンチメーターを使って共有された画面を教室に掲示しておき、これまで蓄積してきた「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」を意識したり、授業の中で見比べたりすることができるようにした。(図1)

表1 道徳科授業計画

	時	教材名(内容項目)	評価の視点
1	1	「あなたの時間にいのちをふきこめば」(D 生命の尊さ)	評:命を大切にすることが、その命を何のために使うのかということにつながることに気づき、毎日を大切に生きようとするについて考えを深めている。【単元を通しての学習課題の設定】
2	2	「ねこの手ボランティア」(C 公共の精神)	評:働くことの意義を理解し、進んで人のために働こうとする気持ちを高めている。
	3	「三つのつつみ」(B 親切、思いやり)	評:見えない誰かのために自分がすべきことをする行為の素晴らしさに気づき、人を思いやり進んで親切にしようとする心情について考えを深めている。
	4	「朝がくると」(B 感謝)	評:自分の生活を支えてくれているさまざまな存在に気づき、感謝の心をもって生活していこうという意欲や、自分も誰かの支えになるような生き方をしていこうという考えを深めている。
	5	「つくればいいでしょ」(A 個性の伸長)	評:人は成長できるのだということに気づき、自分を伸ばしていこうとすることについて考えを深めている。
	6	「がむしゃらに」(A 希望と勇気、努力と強い意思)	評:物事に精いっぱい打ち込むことの素晴らしさと、それができないことの情けなさに気づき、強い意思をもってやるべきことを粘り強くやりぬこうとすることについて考えを深めている。
	3	7	「自分の時間にいのちをふきこむ」 自分は今どんなことを大切にしたいか 自分自身のことについて考えを深めている。【単元の振り返り】

※ 他教科・他領域との関連

社会「自然災害から」

・誰かのために自分にできる事をしよう!!

総合的な学習の時間「4C喜劇にチャレンジ」

・よさを認め合い、長所を伸ばそう!

2.2 授業実践

第1時 「あなたの時間にいのちをふきこめば」

(D 生命の尊さ)

ねらい：命を大切にすることは、その命を何のために使うかという命の質でもあるということに気づき、限られた命を大切に生きていこうとする心情を深める。

この教材は、4月の初めにも扱っていたため導入で日野原氏について想起させた。中心発問では、「時間にいのちをふきこむ」という意味について考えた。児童からは、

- ・人の命のために時間を使う
- ・時間を無駄にしない

などが出た。「人の命のために時間を使うとはどうすることか」を問うと、

- ・困っている人を助ける
- ・他の人が得をすることを

と意見が出た。しかし、「いのちをふきこむ生き方、自分ならどんな生き方ができそうですか？」を問うと挙手できたのは4人だけであった。振り返りにも、具体的にどうしていけばよいのかイメージしにくい様子が見て取れた。そこで、「時間にいのちをふきこむ生き方をするのとはしないのとは、何か生き方が変わってきますか」と尋ねると、「変わりそう」と頷いた。そこで、『自分の時間にいのちをふきこむ生き方を見つけよう』と単元を通しての学習課題を設定した。

第2時 「ネコの手ボランティア」

(C 公共の精神)

ねらい：避難所でボランティアとして働く侑加や由美子の思いを通して、働くことの意義を理解し、進んで人のために働こうとする心情を育てる。

この授業では、「目が回るほどの忙しさではなくなっているのに、まだまだ4人は頑張るつもりなのはどうしてか」について考えていく中で、「相手を喜ばせたい」「相手を安心させたい」といった相手の喜びを考えての行動や「みんなの役に立ちたい」「いろいろな人の役に立ちたい」といったみんなの役に立つことが自分自身の喜びになることなども考えることができた。この時間のメンチメーターには、「人を助ける」の文字が大きくでていた。

以下、児童がメンチメーターへ記入したことを上に、その下に振り返りを記す。

振り返り

◇人の役に立つことをする:A児

人のためにボランティアをすることも、自分の時間にいのちをふきこむになるのじゃないかなと思います。「自分がやりたいこと」より「自分がや

るべきこと」(人の役に立つ事)の方が最優先じゃないかなと思います。

◇人をたすけるために、自分から進む

人に助けてもらうのではなく、自分から進むことができてすごかった。共助でいることがすごい事だと思う。

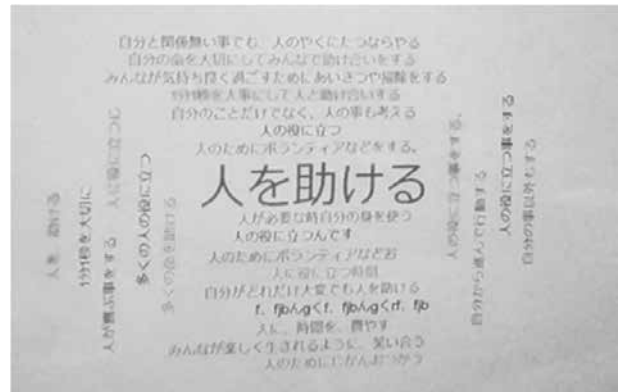


図1 メンチメーターへの記入

第3時 「三つのつつみ」(B 親切、思いやり)

ねらい：次に来る人のために自分がすべきことをするデルスウの行為のすばらしさに気づき、人を思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。

単元の学習課題を確認した後、思いやりや親切な行動はどんな時にするかを尋ねた。児童は「こけた子を保健室に連れていく」「お年寄りに席を譲る」など目の前にいる人に対しての思いやりや親切な行動を挙げていた。

「デリウスをしたことが心打たれるのはなぜか」を話し合う中で、自分たちが授業の初めで発表していたものは、目の前にいるものばかりであり、思いやりや親切な行動は、目の前にいる人に対してだけではなく、その場にはいない人のためにも行うことがあるということに気付くことができた。

振り返り

◇その場に困っている人がいなくても、その人が助かるように準備をする:A児

デルスウさんのように、その場に困っている人がいなくても、後のことを考えて助けるためのものに(この話では塩・薪・マッチのこと)を用意しておくことも大切じゃないのかなと思います。身近にこのようなことを探してやってみようと思います。

◇人のために時間を使う・自分ができそうなことがあればやる

直接「ありがとう」と言われなくても、心から「ありがとう」と思ってもらえたらいいな。今ま

では、せっかくだいいいことをしてあげたのに、「ありがとう」を言ってくれないのはぜったいいやという考えしかなかったけど、それと反対の考えもあると気づきました。人のために何かできる人はすてきだな。

第4時 「朝がくると」(研究授業)

ねらい:自分の生活を支えてくれる存在に気づき、そのことが当たり前と思うのではなく、感謝の心をもって生活していこうとする心情を育てる。

和歌山大学附属小学校の研究主題「未来に生きて働く資質・能力の育成～子どもが自己調整を行う場面を生むしかけ～」と関連しての授業者の提案授業の記述を以下に示す。

・提案授業における調整場面としかけ
この時間における調整場面は、①「自分の時間にいのちをふきこむ」生き方について新たな気づきをもつ場面(気づく)と②学習を振り返り、自分の生き方についての考えを再構成する場面(決める・動く)である。
第1時で子どもたちと作った学習課題について、自分たちの生活場面を具体的に考えさせることで、新たな気づきが生まれると考える。そのためのしかけとして、「日々の生活に感謝する」「支えてくれている人の思いに応えられるようにする」「自分も誰かを支えたい」等の発言に対しては、「具体的にそんな行動ができそうか」と問い返しを行う。教師が丁寧に立ち止まり、問い返しを行うことは、子どもたちの今後において、自分の生活に置き換えて考えていこうとする「学び方の調整」をして身に付いていくことにもつながると考える。さらに、②学習を振り返り、自分の生き方についての考えを再構成する場面(決める・動く)では、3つの視点(「学んだことや考えたこと」「自分を振り返って」「これからの生活に生かしたいこと」)で書けるようにすることで、子ども自身が本時の学習課題と照らし合わせながら、自分の生き方についての考えを再構成し、「決める」「動く」を行うことができる。と考える。

このように授業デザインをし、第4時にあたる授業を実践した。

導入では、学習課題を確認し、普段自分たちの生活を支えてくれている人をイメージするようにした。最初は、警察官、家族など身の周りの人を答えていたが、農家の人や家電を作る人などの発言も見られた。

思ったことをペアで交流した後、「自分たちの生活を支えてくれている人たちの思いを受け、

どんなことを考えますか?」と中心発問をした。

T こんな思いを受けてどんなことを考えますか。

C 物を大切に使いたい。

C 毎日お礼を言う。

C 身近に使っているものでも乱暴に使わないようにしようと思った。

C ありがとうに似ていて感謝です。

C 感謝もあるけど、こういうものを創ってくれたその感謝の気持ちを伝えたい。

C 私たちが学校に行けるようにしてくれているから思いをうけていって感謝していけるように学んでいきたい。

C おもちゃを作ってくれた人、買ってくれた人、作った人はどういう望みをしているのか考えて使う。

などの意見が出され、自分自身との関わりで感謝の心をもとうとしていた。

振り返り

◇人の役に立つものをつくる・支えてくれている人に感謝する:A児

自分が人を支えるだけでなく、自分を支えてくれている人に感謝することも「自分の時間にいのちをふきこむ」ことの生き方に入るんじゃないかなと気づきました。自分はあまりそういうことを考えていなかったのですが、今度からはそれを考えつつ生活していけたらいいなと思いました。

◇支えてくれている人に感謝する

自分の見えないところでも支えてくれていることがわかって、大人になったら、支える側になりたいです。ぼくは何もしてなくて、こわれたおもちゃを直すことしかできないけれど、大人になったら何でもできるようになりたいです。

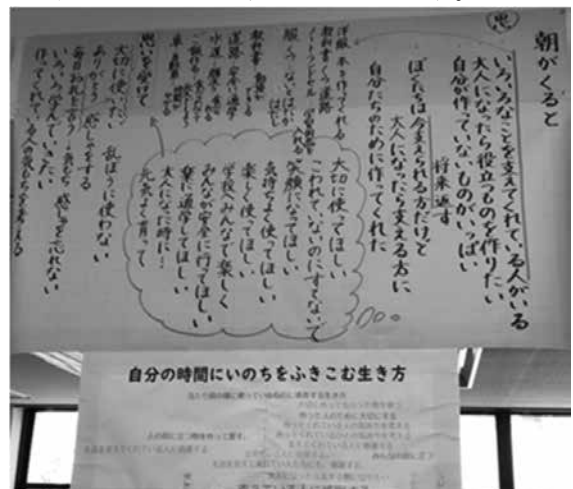


図2 「朝が来ると」の教室掲示

これまでは、「他の人のために自分の時間にいのちをふきこむ生き方」について考えてきた。

後半の2回は、「自分のために、自分の時間にいのちをふきこむ生き方について」考えていく。

第5時 「つくればいいでしょ」(A 個性の伸長)

ねらい：自分探しをする「わたし」の思ったことや行動について考えることを通して、人は成長できるのだということに気づき、自分を伸ばしていこうとする態度を養う。

自分の長所や短所について考える主人公の私は、短所はたくさん見つかるが長所はなかなか見つからない。これは、多くの児童にも言えることである。お母さんの「見つからなければ、つくればいいでしょ。」の言葉を考えている折、親友の愛子さんに駅伝大会に出るための練習に誘われ、長所がみえてきた主人公。主人公がお母さんの言葉「つくればいいでしょ。」について考えた。

C 長所はチャレンジして作ったらいい。

C 長所はつくと自信がもてる。

C いろいろやってみて、合ったものを見付ける、長所の見つけ方がわかった。

C 長所は続けたり、頑張ったりすれば作れることが分かった。

このように、自分の長所や短所について見つけ、どう考えていけばいいのかについて深めていた。

振り返り

◇自分の短所を直して、長所にする。それをつかって人の役に立つ A 児

自分をよくし、その自分を使って、人の役にたつことをするという今日と前をつなげることもできるなと思いました。ぼくはけっこう短所が多くて、直そうと試みてもなかなかできなくて困っているけど、もう一度やってみようと思うけど、なかなかできそうにありません。どうしたらいいのか考えてみようと思います。

◇短所をどうすればこく服できるか考えながら頑張る

考えたことは、私もだけど、短所はよく思い浮かぶけれど、長所は思い浮かばないことがあるから、長所を伸ばして、短所をどんどんこく服していきたい。でも、努力なしでこく服しようとせずに、遠回りするかもしれないけれども、頑張って努力しながら短所をこく服したいです。

第6時 「がむしゃらに」(A 希望と勇気、努力と強い意思)

ねらい：物事に精一杯打ち込むことのすばらしさと、それができないことのなさけなさに気づき、強い意志をもってやるべきこと

を粘り強くやり抜こうとする心情を育てる。

元大関である魁皇は、大相撲の長い歴史の中で2番目に多く勝った力士である。しかし、そんな魁皇関も、逃げ出したいと思い実際に逃げ出したこともあった。そんな魁皇関から学んだ生き方について考えた。

中心発問「逃げ出した魁皇がヘンリーを見てどんなことを考えたのか」では、ペアで話し合った後、次のような発言が見られた。

C 不安がいっぱいあるヘンリーが頑張っているのに、自分がなさけない。自分はヘンリーほど不安ではない。

C ヘンリーは、つらいかもしれないのに頑張っている。

C 後輩なのに頑張っている。自分はどうして逃げ出してしまったのだろう。

次に、優勝カップを持つ写真を見て、このときどう思っているだろうというところでは、

C がむしゃらにけいこして、大関まで上がったから誇りに思っている。

C あきらめないで、自分の目標にかけあがったな。

C どんどんやっていたら自分の思いに、達成感がある。

このように、魁皇関の気持ちに共感し、その後自分との関りで学習課題について考えた。

振り返り

◇あきらめない・がむしゃらに取り組む A 児

あきらめずに、がむしゃらに取り組み、目標を達成し、それを利用すれば人の役に立つのではないかなと思います。ぼくは何度かあきらめてしまったことがあります。続けてみようとは思ったりもしますが、気持ちが複雑でなかなかできません。あきらめないことはむずかしいです。

◇あきらめずに進んで物事をする

自分があきらめずに取り組むことで、自分もうれしく達成感があるけど、自分だけではなく家族や地元の人、そして、一緒に頑張ってきた仲間みんなの気持ちが明るくなっていくのではないかと私は考えました。私は習い事で嫌なことや逃げたこともあったけど、テストで受かっていくたびに達成感が高まっていくので、もっと達成感を高めたいです。

第7時 自分の時間にいのちをふきこむ生き方をみつけよう

○自分は、今、どんな生き方を大切にしている？

○これから、どんな生き方を大切にしていきたいと思う？

と聞いた。子どもたちは、

- ・人のために何かすると、人も自分もうれしい。
- ・短所を長所にして、他の人に役立てたい。人を支えられるようになりたい。
- ・いつも感謝する。人が必要な時に自分の身を使う。
- ・あきらめない、自信が出てくる。あきらめると自分に自信がなくなる。

などが出された。

日野原さんの著書「十歳になるきみたちへ」から、十歳のみんなへのメッセージの部分の授業者が心を込めて読んだ。その後、今までの記述を読み返したり、教室の掲示(図3)を見たりしながら単元を通しての振り返りを書いた。

第2時から、振り返りを載せているA児(太字で掲載)について、今までの振り返りの記述も含め第1時と第7時を比較する。

A児の振り返り

◇第1時

時間を他人のために使うことは大切だけど、まず自分が元気でないとダメだと思います。他人のために一人が時間を使っても、全員が助けられないから、一人一人がそう思うことが大切だと思います。そうすると、みんながみんなをたすけあえるんじゃないかなと思います。

◇第7時

ぼくは、短所を長所に変えたり、短所から長所を見つけたりして、それで、人のために役立つことができるんじゃないかなと思います。また、あきらめずに取り組めば、それが自信になり、そして何かできて、それが何かの人の役に立ち、そして、また取り組む、無限のループのように感じます。

第1時で、どのような時間の使い方をすれば人のために時間を使うことになるのかの答えが出ていない。しかし、単元の学習が進んでいくうちに、「人のために時間を使う」ということの実体的な行動を蓄積して考えることができた。

また、後半の「自分のために頑張る生き方」についても、それを使って人のためにということ

まで考えを広げている。これは、児童が学習課題を自分事としてとらえ、単元を通して、「自分の時間にいのちをふきこむ生き方」、その中でも「人の役に立つ生き方」を継続して考え続けることができたからだと考える。

3 考察

複数価値で7時間のユニットを組んで道徳科の授業を実践した。7時間とも、子どもたちはよく考え、意見を言い合い、互いの考えを共有していた。終末では、自分の生活を振り返り、自己の生き方について考えを深めることができたのではないかと考える。

このような児童の姿を見ることができたのには、次のようなことが考えられる。

一つ目は、学手課題が児童の発達段階に合っていたことである。田村(2017)は、探究的な活動に適した価値ある対象(内容)であるかを見極める単元構成の着眼点を5つ挙げている。そのうち次の2つが道徳科における単元の追求テーマにも当てはまると考える。

- ・発達の段階や学習履歴、生活経験等から考えて目の前の子供の実態にあっているか。
- ・材について、多面的に見つめ、その価値について十分教師が捉えているか。

子どもの発言や記述から日野原さんが「十歳の子どもたちに」伝えておきたいこと、託したいことは、子どもたちの心に響いていた。

二つ目は、授業者が願いをもち工夫を凝らしながら「課題追求型道徳科授業」で児童の主体的な道徳学習を目指したことである。それぞれの内容項目のねらいをもとにテーマに沿って関連を図り、意識をつなげた。

これからも、自己の生き方についての考えを深めるための道徳科授業を中心とするカリキュラムデザインの在り方を探っていきたい。

(参考文献)

- 「道徳科授業づくり」(東洋館出版社) 田沼茂紀
 「深い学びのカリキュラムデザイン」(〃) 田村学

